

# 令和二年度・事業報告書

社会福祉法人 コージー南国

1、令和2年度経営状況について

令和2年度は、年明け1月から世界中でコロナウィルスの感染が拡大し、感染対策の徹底を図った。4月に感染予防のためとして、一部利用者が1週間から1ヶ月くらい利用休止となった。就労Bの利用者が1名陽性となり急遽、3日間事業所を閉鎖し、就労Bの利用者・職員全員のPCR検査を実施、その結果、利用者職員とも全員マイナスではあったが、生活介護の利用者が1名コロナで休んだまま退所となり、同じく生活介護の利用者が1週間休みとなった。また、8月にさらに生活介護利用者が自宅で大怪我をし、長期入院となりそのまま退所した。

その結果、生活介護給付費収入は、表1のように対前年度比増の月は、4・6・3月の3ヶ月のみで、他の月は対前年比マイナスとなった。

(表1) 生活介護給付費収入、前年度対比

年 度	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
R1年	2,430,190	2,609,980	2,425,640	2,754,453	2,376,260	2,311,970
R2年	2,505,750	2,159,500	2,680,360	2,580,660	2,258,970	2,171,390
対前年比	+75,560	-450,480	+254,720	-173,793	-117,290	-140,580
年 度	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
R1年	2,680,640	2,531,730	2,306,000	2,265,890	2,128,760	2,626,630
R2年	2,388,290	2,050,870	2,242,720	1,640,130	2,028,530	2,750,820
対前年比	-292,350	-480,860	-63,280	-625,760	-100,230	+124,190

就労Bは、令和2年度は利用者が順調に増となり、12ヶ月連続で訓練給付費収入が対前年増となった。

(表2) 就労B訓練給付費収入、前年度対比

年 度	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
R1年	1,371,640	1,280,880	1,281,010	1,338,680	1,144,870	1,189,930
R2年	1,547,960	1,298,260	1,621,480	1,523,320	1,428,300	1,541,260
対前年比	+176,320	+17,380	+340,470	+184,640	+283,430	+351,330
年 度	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
R1年	1,441,630	1,353,750	1,330,110	1,189,590	1,120,850	1,419,600
R2年	2,049,060	1,679,220	1,719,150	1,314,620	1,592,960	2,039,360
対前年比	+607,430	+325,470	+389,040	+125,030	+472,110	+619,760

また、令和2年度の生活介護の年間収支差額は、やはり利用者減による利用日数減の影響で、-2,901,179円となった。

一方、就労継続支援Bは、利用者増と安定した利用日数により、+2,788,973円となった。

全体の収支差額は下の表3のように、5・6・7・12・1月がマイナスとなった。

(表3) 令和2年度・月別資金収支差額

4月	5月	6月	7月	8月	9月
+909,975	-339,206	-1,675,927	-526,936	+350,271	+533,941
10月	11月	12月	1月	2月	3月
+789,649	+479,442	-1,973,811	-101,428	+199,123	+1,373,790

生活介護の実利用者数は、9月から2月の6ヶ月間マイナス1名であったが、就労継続支援Bは、4月から3月まで、プラス1～2名で推移した。

(表4) イ 令和2年度・生活介護月別実利用者推移(上段R1・下段R2)

生活介護	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
R1	16	16	16	16	16	16	16	17	17	17	17	18
R2	18	17	17	17	17	15	15	16	16	16	16	19
対前年比	2	1	1	1	1	-1	-1	-1	-1	-1	-1	1
就労継続B型	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
R1	13	13	13	13	13	13	14	14	14	14	14	14
R2	14	14	14	14	14	15	15	15	15	15	15	16
対前年比	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	2

R1・R2年度の生活介護・就労B型の月別延べ利用者数は以下のとおり

(表5) イ R1年度、R2年度・生活介護月別延利用日数

生活介護	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
R1	304	304	293	316	278	273	321	305	275	271	249	306
R2	300	266	328	316	279	266	293	253	278	201	250	339
対前年比	-4	-38	35	0	1	-7	-28	-52	3	-70	1	33

(表5) ロ R1年度、R2年度・就労継続支援B月別延利用日数

就労 B型	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
R1	202	203	197	209	181	180	227	222	217	194	186	234
R2	255	214	268	252	236	253	297	243	249	186	224	284
対 前 年 比	53	11	71	43	55	73	70	21	32	-8	38	50

R2年度の生活介護の利用者延べ利用日数は対前年度に比べ、マイナス126日と減少した。就労継続支援B型は利用者が対前年度プラス509日と、前年に引き続き大幅に増えた。

## 2 令和2年度事業収支

(表6) 令和2年度の事業収支は以下のとおり、

	事業収入	事業支出	収支差額
4月	4,233,064	3,307,537	925,527
5月	3,613,232	3,921,348	-308,116
6月	4,515,034	6,159,871	-1,644,837
7月	4,364,012	4,299,408	64,604
8月	4,027,161	3,535,800	491,361
9月	4,172,940	3,610,464	562,476
10月	4,810,234	3,989,642	820,592
11月	4,098,038	3,587,653	510,385
12月	4,328,230	5,940,568	-1,612,338
1月	3,571,074	3,641,559	-70,485
2月	4,555,741	4,325,675	230,066
3月	5,727,584	4,179,460	1,548,124
合計	52,016,344	50,498,985	1,517,359

上記、表6のように事業収支差額は差引き1,517,359円プラスであった。5月の収支差額が他の月と比較して低いのは、表5イが示す如く、生活介護の5月利用日数が、対前年マイナス38日と少なく、また前後の月と比較しても少なかった。6月と12月は賞与支給月のため、マイナスとなっている。

1月のマイナスは、生活介護利用日数が前年度と比較してマイナス70日、就労継続支援Bがマイナス7日と、利用日数が少なかったため、減となっている。

特に生活介護の資金収支差額は-2,901,179円と利用者減、利用日数減が大きく影響した。

(表7) 会計区分別資金収支差額

会計区分	収支差額
本部会計	-232,245円
就労継続支援B	2,788,973円
生活介護	-2,901,179円
相談支援	-346,861円

3月は、生活介護に3名、就労継続支援Bに1名新規利用者が増えた。特に生活介護は強度行動障害利用者が9名に増加した。ひとりの支援困難利用者は、常時、1:1で職員が付かなければならず、利用者個々の個別特性を大切に、経験主義に陥らず様々な研修を通し、可能な限り適切な支援に努めたい。

### 3 令和2年度の職員配置体制は以下のとおり

(表8) 令和2年度職員配置体制

多機能型 職 種	生活介護		就労継続支援B型		相談支援
	常 勤	非常勤	常 勤	非常勤	
管理者		1(兼)		1	
サービス管理責任者	1(兼)		1(兼)		
相談支援員					1
生活支援員	4	4	—	4	
目標工賃達成指導員			1	1	
職業指導員			3	1	
医 師		1		1	
看護師		1		1	
事務員	1	1			
合 計	6(兼1)	8(兼1)	5(兼1)		

#### 4、運営報告について

令和2年度も前年より継続して、個別支援計画に基づく支援サービス・担当者会議・モニタリングの実践に努めた。あくまで支援業務は個別支援計画に基づいて行わなければならないこと。評価の見直し(モニタリング)・利用者ご本人と家族への説明と同意(インフォームドコンセント)が如何に重要であるか、こうした制度に基づいて行わなければならないことの必要性を職員研修においても取り上げ、周知を図った。

また、利用者主体の意思決定の尊重に基き、生活介護、就労Bともに、前年度から継続してそれぞれのコミュニケーション特性に配慮しながら、自分の意見思い考えを出して伝えることを通して自ら意思決定することを尊重した。

#### 5、事業活動報告

##### ① 生活介護

生活介護の週間予定は以下のとおり

(表7) 生活介護週間予定表

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午 前	散歩活動	散歩活動	散歩活動	散歩活動	散歩活動
	作業活動	作業活動	作業活動	作業活動	作業活動
午 後	カラオケ	あくた 運動レク	読み聞かせ	創作活動	喫 茶 コージー

##### イ、作業活動

生活介護の作業活動は、①缶回収・広報活動、②アルミ缶とスチール缶の仕分け・空き缶のプルタブはずし、③手袋の整形・袋入れ作業を行っている。

缶の回収およびプルタブ外しはほぼ全員で取り組むことができている。外したプルタブは南国市社協のプルタブを車椅子に換える活動に協力提供している。

手袋作業は、コロナの影響で中断した時期もあったが、後半は逆に手袋によってコロナへの接触防止に効果があるということで、受注数が増えてきている。

また、就労Bの取り組んでいる割り箸入れは、やはりコロナの影響で飲食店が営

業を控えたため中断した。

#### ロ、散歩活動

前年に引き続き、生活介護は午前利用者の体力低下防止、健康維持増進を目的として散歩活動に取り組んだ。昨年からの継続で、長距離、中距離、室内歩行組に分かれて取り組んだ。月水金は、施設北側の農道、水木は施設建物の周回歩行も取り入れている。それぞれのペースに合わせて取り組んでいる。

#### ハ、午後の余暇活動

午後の余暇活動は、月曜のカラオケと水曜の本の読み聞かせは自由参加、火曜の「あくた」は、全員参加で体を動かす。木曜日は隔週でレクレーションと創作活動今年創作活動は、今年コロナの影響でスピリットアート展が中止となったため、作品創りが例年に比べスローペースとなった。

金曜日は、一週間、作業や余暇活動に取り組んだお疲れ様、また来週も頑張ろうとの慰労も兼ね、利用者がウェイトレス・ウェイトレスとなって注文取り、飲み物のテーブルへの運ぶ作業も、すっかり板についてきている。

月の最終金曜日は、職員がウェイトレス・ウェイトレスとなって、逆に利用者におもてなしをしている。喫茶コーナーは利用者の大きな楽しみとなっている。

令和2年度生活介護の利用者支援区分は次のとおり

(表9)令和2年度、生活介護利用者支援区分

R2	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
人数	0名	2名	8名	6名	2名

利用者によって、その時期その時期によって意思表示状態や行動状態に変動が見られ、改善が見られていても再び低下することもある。逆にレベルが低下していても改善されることもある。可能な限り安定した生活レベルが保たれるよう、今後も支援に努めたい。

令和2年度の生活介護の作業活動による収入および工賃は以下のとおり

(表10)令和2年度・生活介護月別作業収入・作業工賃

生活介護	手袋	空き缶	段ボール	割り箸	作業収入計	作業工賃計
4月	6,062	4,785	0	0	10,847	29,700

5月	6,093	6,622	0	0	12,715	26,300
6月	3,374	4,633	0	0	8,007	32,800
7月	3,612	0	0	0	3,612	34,600
8月	3,225	10,260	105	12,705	26,295	50,800
9月	3,035	10,010	175	0	13,220	29,700
10月	1,225	0	105	12,705	14,035	28,800
11月	0	21,595	140	8,855	30,590	34,400
12月	0	12,153	70	0	12,223	58,000
1月	0	0	0	8,855	8,855	29,300
2月	0	0	0	0	0	31,700
3月	4,120	14,155	175	0	18,450	31,900
合計	30,746	84,213	770	43,120	158,849	418,000

## 6、就労継続支援B型

令和2年度就労継続支援B型の週間予定は以下のとおり

(表7) 就労継続支援B型週間予定表

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	ゆずトリミング なす袋詰め のし袋袋入れ	ゆずトリミング なす袋詰め のし袋袋入れ	ゆずトリミング なす袋詰め のし袋袋入れ	ゆずトリミング なす袋詰め のし袋袋入れ	ゆずトリミング なす袋詰め のし袋袋入れ
午後	ゆずトリミング なす袋詰め のし袋袋入れ	ゆずトリミング なす袋詰め のし袋袋入れ	ゆずトリミング なす袋詰め のし袋袋入れ	ゆずトリミング なす袋詰め のし袋袋入れ	ゆずトリミング なす袋詰め のし袋袋入れ

R1年度、R2年度年度の就労B型の月別利用者推移は以下のとおり

(表8) R1年度、R2年度年度、就労継続支援B型月別利用者推移

就労 B型	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
R1	13	13	13	13	13	13	14	14	14	14	14	14
R2	14	14	14	14	14	15	15	15	15	15	15	16

R1年度は4月から9月にかけて13名、10月から3月まで1名増え14名で推移した。R2年度は、4月から8月にかけて14名、9月から2月まで1名増え15名、3月に1名増え16名となった。



令和2年度の就労継続支援B型月別作業収入は以下のとおり

(表9) 令和2年度・就労継続支援B型月別作業収入

就労 B型	のし袋 パブリカ	ナス カツオ	ゆず トリミング	きゅうり	空き缶 プレス	良心市	玉ねぎ	作業収入
4月	5,107	22,445	90,321	0	19,140	0	0	137,013
5月	7,117	18,807	65,175	0	26,488	0	0	117,587
6月	0	0	88,427	0	18,532	0	0	106,959
7月	0	0	55,146	54,076	0	17,280	79,200	205,702
8月	0	0	73,372	38,027	10,260	25,415	107,752	254,826
9月	0	0	91,790	3,311	10,010	15,660	222,981	343,752
10月	0	0	106,260	0	0	12,500	222,706	341,466
11月	0	カツオ	62,717	15,455	21,595	17,650	190,214	307,631
12月	0	82,940	0	0	12,152	12,600	199,375	307,067
1月	16,800	62,436	0	693	0	6,650	169,620	256,199
2月	25,600	70,224	0	0	0	14,660	214,863	325,347
3月	34,400	0	76,379	0	14,155	16,450	242,825	384,209
合計	89,024	234,407	709,587	111,562	132,332	138,865	1,649,536	3,065,313

令和2年度の就労B型の作業収入は、のし袋がコロナの影響もあり、6月から10月にかけて中断した。ナスはシーズンオフにより中断、これに変わる仕事を捜し、南国市内の青果業者さんに交渉し、1年を通して野菜(玉ねぎ・ジャガイモ等)の袋詰め作業ができることとなった。

1袋当たりの単価もナスの袋詰めよりも良く、大幅に作業収入がアップとなった。ゆずはコロナの影響もあり、12月・1月・2月と出荷が中断した。

## 7、日中一時支援事業

令和1年度の日中一時支援事業の利用者は3名のみに留まった。

利用日数は、計13日に留まった。

(表10) 令和2年度日中一時支援事業月別利用者推移

R 2	4月	8月
利用数	1人	1人
日数	2日	1日

## 8、実習生受入れ状況

(表11) 令和2年度の実習受入れ状況は以下のとおり

受入れ期間	受入れ日数	受入れ人数	実習依頼先
令和1年10月日～10月日	10日	3名	山田特別支援学校
令和2年2月日～2月日	5日	3名	〃
令和2年2月日～2月日	2日	1名	日高特別支援学校
令和2年度・合計	17日	7名	(延べ日数・人数)

令和2年度は、受入れ人数は昨年同様7名であった。実習延べ日数は昨年より7日増え47日であった。この実習生のうち1名は日高特別支援学校の支援困難利用者で実習受け入れ先がなく、学校からの要請にて受け入れた。令和3年度からこの日高の実習生を含め、3名が生活介護の新規利用となった。

## 9、職員研修

### イ、施設内研修

令和2年度は、施設内研修4回、初回は「あおぞら宣言」を受けてグループワークにて支援の在り方について研修した。

2回目は、就労B職員の中山さんに、「障害を持つ子の親として」というテーマで親の立場での思いを語ってもらった。

3回目は、長谷川所長が以下のテーマから1つ選び、自己の考え、意見をまとめ、1人3分以内で報告・発表してもらった。

- 1、私の障害支援に対する考え方
- 2、今の自分の課題(仕事・プライベート・他)
- 3、コージーの改善すべきところ(人的面・施設面・設備面・他)
- 4、利用者に係る提案
- 5、今、憤っていること(政治・仕事・家庭・他)
- 6、その他、これだけは言いたい

初めての試みであったが、普段からみんなの前で自分の意見や考えを発表するという経験はあまりないので、そうした場を設けた。意外と皆、緊張することもなく発表で

きた。

発表の内容のいくつかは、広報「コーギー便り」第6号に掲載した。

(表12) 令和2年度の研修は以下のとおり

研修実施日	内部研修	外部研修
5月20日	「あおぞら宣言」に学ぶ 事例研修 講師 (長谷川サビ管)	
7月29日		5S推進セミナー 「職場の環境整備」
9月9日(内部) 9月24日(外部)	「障害を持つ子の親として」 講師(就労B:中山職員)	強度行動障害支援者養成研修 (基礎研修)
10月8日(外部)		福祉職場の中堅職員研修 ファーストステップ研修
12月9日(内部)	自己の考え、意見をまとめた発 意見発表会(1人3分以内)	
1月27日(外部)		(チームケア力を上げる) ケアリーダー研修
2月8日(外部)		強度行動障害実践研修
2月10日(内部) 2月10日(外部)	虐待について 虐待事例を通して学ぶ	TEACCHに学ぶ自閉症支援
2月19日(外部)		問題解決技能トレーニング研修

また、外部研修はコロナの影響もあり対面研修を取り止め、ZOOM(ズーム)によるWEB(ウェブ)研修の機会が多くなった。

#### 10、防災訓練

令和2年度防災訓練は、火災訓練1回、地震訓練1回、風水害訓練1回、通報訓練1回実施した。

久礼田地域は津波浸水区域外であるが、コーギー東側約300mを流れる領石川が、最近の予想を超える大雨が降った場合、コーギーの南約200mが本流の国分川合流

地点のため、本流の増水時は領石川が流れ込まなくなり、領石川の氾濫の危険性が高まる。従って、風水害避難訓練を重点的に行う。

(表13) 令和2年度防災訓練は以下のとおり

訓練実施日	訓練内容	参加者数
4月21日 9:30～10:00	火災避難訓練	利用者：26名 職員：10名 その他：2名
6月9日 9:30～10:00	風水害避難訓練 (屋内2階へ避難)	利用者：26名 職員：13名 その他：名
8月20日 9:30～10:00	地震避難訓練 (屋外へ避難)	利用者：31名 職員：11名
10月8日 13:30～14:00	災害通報避難訓練	利用者：0名 職員：2名 その他：名

### 1.1、次年度に向けた課題

令和2年度は年明け早々、コロナウイルス問題が世界中を駆け巡った。県下の福祉施設でも何ヶ所かクラスターが発生し、県下全施設に注意喚起がなされた。

コーギーにおいても、感染予防対策として利用者・職員共に朝の検温実施、マスクの常時着用・手洗いの励行・手指消毒の徹底・ドアや手すり等、接触部分の消毒、窓を開け室内空気の循環実施を継続して行っている。

令和2年度前期に生活介護の利用者が数名、感染対策等で長期欠席となった結果、生活介護の支援費(介護給付費)が落ち込み、収支差額が約290万余りのマイナスとなった。令和3年度は新規利用者が3名増となり、支援費収入増を期待したい。

一方、就労Bの方は利用者の長期欠席もなく、新規利用増も相まって、収支差額が278万余りプラスとなった。

令和3年度も、これまで以上に質の高い利用者支援の実施に向けて、更なる研修の充実を図り、日々安定して利用できる事業所としていきたい。